

チーム医療を行うために必要なこと：スタッフとの信頼関係を築くために

開業2年間における チーム医療を目指すための システム構築状況

はまのひろのり
浜野弘規

はまの歯科医院
〒232-0024 神奈川県横浜市南区浦舟町4-47-2
メディカルコートマリス202

近隣の神奈川県警察・機動捜査隊の警察官100人の前で、『口の中から見た、健康のあり方』をテーマに、歯科医師の立場とは別な、歯科衛生士の視点からもスタッフに語ってもらった。

当院は2009年2月に開業しました。医院として、院長として、ようやく3年目に入ったばかりなので“チーム医療”の確立について記すことのできる立場ではありませんが、地域に立脚した“強い歯科医院”を目指すためにはスタッフをはじめとした周囲との連携が不可欠、と開業前から考えていました。システムは「すでにあるものを壊して作るよりも、ゼロから立ち上げたほうが早い」と言われることから、新規開業のメリットを活かした歯科医院における“チーム医療”の構築状況についてご紹介いたします。

コンセプト：

お口は健康の入り口

歯科医院に限らず、組織の運営を担う中で、リーダーの存在が最重要であることは言うまでもありません。そのため、スタッフとの連携を図るうえで、院長である自分は「どのような歯科医院を目指すのか」を具体

的に示すことを日頃から念頭に置いています。

筆者は母校などの病理学教室で約10年間基礎医学の研鑽を重ねた後、父親の下で10年臨床勤務。その間、横浜歯科臨床座談会をはじめとした多くのスタディグループで歯科臨床の奥深さを学ばせていただきました。その中で培われた「患者さんの全身状態や立場を考えた歯科医療」をスタッフの採用時や診療後、ミーティング時に繰り返し伝えるようにしています。当院は立地環境（正面に横浜市大センター病院、同居するビルに糖尿病を扱う内科、心療内科、婦人科が併設）から、歯科疾患以外のバックグラウンドを抱えた患者さんも多く来院します。医院開設のコンセプト「お口は健康の入り口」を実践すべく、患者さんの口腔環境だけでなく、全身状態から生活背景までを掴み取りながらの歯科医療を、時には病理像を交えながら検証し、その病態像から治療ゴールまでをスタ

ッフと討議しています。

マニュアルの作成・

実行・変更

“意識”の確立とは別に、歯科医療の根幹はやはり“知識・技術”です。スタッフ力の向上を図るためのシステムマニュアルを明示するように努めています。歯科衛生士とは週1回の院内セミナーを開催し、テーマを決めた発表や症例カンファレンスを行っています。また、歯科衛生士だけのミーティングの時間を設け、特にブラッシングからはじめる技術の向上に焦点をあてています。さらに、アシスタントを含めた全体ミーティングを月1回行い、医院の運営方法から文献抄読会まで実施しています。休日に開催される院外セミナーも、スタッフの力量や現況に合わせて無理なく、医院全員で参加することも実施しています。

体制のもう一つの根幹である医院運営の業務に関しても、筆者が作成



図1 記念すべき「院内セミナー・外来講演」の最初の演者は、尊敬する丸森英史先生にお願いし、「明るい歯科臨床の未来」を楽しく語っていただきました。



図2 患者さんには社会的に立派な方が多数おられるので、その知恵をしばしば拝借させていただいています。この時の演者には『子供ニート、大人ニート』の著者、神山新平様に社会の矛盾と解決策をお話ししていただきました。

したサービス規約をもとに、スタッフの資格や立場に合わせて遂行しています。変化する医院やスタッフ状況に合わせた臨機応変の対応と、当初から決めている“根幹”部分とのバランスを常に保つように図っています。

歯科医療人としての自主性

自己の世界に陥りがちな環境のこの歯科界なので、「歯科医療は患者・地域社会に奉仕する」「社会からみられている」存在であることをスタッフにも認識してもらい、医療人としての自主性の向上を目指しています。例えば、歯科衛生士は担当制を通じて、アシスタントも応対の中から、“かかりつけ医院”として患者さんとのコミュニケーションに取り組んでいます。また、院内セミナーを活用して歯科界(図1)のみならず、歯科界以外の一般社会の方(図2)にも講演を依頼し、多方面の知恵や経験を授かりながら、歯科

界には何が必要かを探っています。

さらに、福祉施設などの歯科衛生活動にも積極的に参加するような環境を設け、「歯科医療が一般社会にどれだけ貢献できるか」をスタッフ間でも考えてもらい、提示しています(タイトル部)。

開設3年目から……

“チーム医療”を語れるほどの状況ではありませんが、ありがたいことに開設以来スタッフには、前向きな医院運営を実践してもらっています。これは私の力量ではなく、スタッフの仁徳と器量の賜物であり、“縁”による出会いだと、深く感謝するほかありません。スタッフを通じて、自分自身もこの2年で臨床の幅が広がった実感を持ちます。スタッフ個々にしても、自分たちが開設に関与している医院という“パイオニアワーク”や、自身が目指している医療像の確立を感じているように

も窺えます。院長はそのスタッフへ“環境”の場をいかに提示できるのか、ということに改めてこの2年間で認識ははじめました。今後は、さらなる成果が“地域”に反映されることを確信しています。

歯科の“チーム医療”は、スタッフだけではなく、医院を支えている技工所や材料店との緊密な情報交換や周辺の医療機関との連携も医療体系の柱と考えています。

開業時に放送していた大河ドラマ「天地人」の主人公・直江兼続の精神は「人こそ組織の財産なり」でした。そして、組織運営のキーワードとしてバレンタイン元ロッテ監督が提唱した「3R: Reality (現実性), Responsibility (責任感), Respect (尊重)」に加え、Riso (理想)も加えた“4R”を基調に、今後も地域に根ざした健康観に立脚した“チーム医療”の構築に、さらに邁進したいと考えています。